

いまだき キャンパス

東京都市大(横浜市都筑区)



学園祭を開催すると、多くの二酸化炭素が出ます。そのサイクルを断ち切ろうと、東京都市大横浜キャンパス(横浜市都筑区)の横浜祭では6年前から「カーボンオフセット」に取り組んでいきます。参加者からの協力で植林を行い、排出される二酸化炭素を差し引きゼロにする試みです。

7、8日に行われた今年の



①来場者にカーボンオフセットの仕組みを説明する学生
②横浜の野菜で作った焼きそばのブースは大盛況だった。いずれも東京都市大横浜祭運営委員会提供

横浜祭では、まず排出量を削減する工夫をしました。エレベーターの使用を制限し、太陽光パネルを導入。学生には、物品の購入を控えれば排出量が減らせることを知らせました。

それでも、開催前の試算では36・6トンの二酸化炭素が排出される想定に。植林の資金にするため、当日は来訪者に趣旨を説明し協力を仰ぎま

CO₂ 削減 学園祭で実践

した。

その際、各自の最寄り駅と来場方法を聞き取り、キャンパスに来るまでに排出された二酸化炭素をその場で計算。自分が環境に与えている負荷を知ってもらうには、数字で見ってもらうことが大きいと考えました。

今年は、横浜産食材を使用した焼きそばも販売。地産地消なら食材の輸送時に排出される二酸化炭素を減らせるうえ、売り上げは植林に回せます。宣伝効果は大きく、お昼時には完売しました。カラマツの苗を買い、10月下旬に北海道美幌町で植える予定です。

全国の大学に先駆けて始めたこの活動は、他の大学にも広がっています。さらに広がれば、社会へのインパクトは大きい。協力は単なる募金ではなく、自分を含めた人間が環境に負荷を与えていることへの補償という考え方。環境問題をひとつでなく「自分ごと」として考えてもらう取り組みを、広げていけたらと思っています。

(藤本麻菜 東京都市大3年生)

■この記事・写真等は朝日新聞社の許諾を得て転載しています。
無断で複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁止します。

学校法人 五島育英会